

子どもたちへの星のソムリエ

柴田 神秘絵 *

2022年9月21日

背景 星のソムリエ養成活動の中で、着手したかったけれどもパワー不足でできていなかったことの一つに子どもたちへの活動があります。しかし、法人化の中でできそうになってきたので大変嬉しく期待しています。具体的な内容はさておき、私自身のモチベーションを二つ書きたいと思います。一つは、子ども時代に親や先生じゃない他人に遊んでもらう・教えてもらう経験の重要性。もう一つはハッピー二乗は子どもだって同じと言うことです。

*本名：柴田晋平、shibata.shimpei@gmail.com

1 遊んでもらうこと・教えてもらうこと

これは私自身の経験ですが、ほとんど記憶の彼方にある経験で、実はよく覚えていないことです。多分、4-5歳の頃、近所に住む「お兄ちゃん」がとても優しくたくさん遊んでくれました。おそらく毎日かなりの時間を——。その「お兄ちゃん」の名前は覚えていませんし、ぼんやりとしたおぼろげな印象が神様みたいにあるだけです。

話は、飛びますが、私が学生の頃、自分の進路として考えていたのは、天文学者と教員でした。教員はできたら小学校。ただ、当時理学部にいましたので免許の関係で小学校は無理で、中学校を具体的に考えていました。教育実習で中学校に行き、中学時代の子どもたちの面白さに触れて以来、中学校教員に志望を定めました。

天文学者か教員かは同じくらいの意欲なので、どちらになるかは偶然に任せることにしました(最初に受けた教員採用試験に落第し、次に受けた院試に通ったため現在の状況になっています)。しかし、今でも教材研究には余念がないし、星のソムリエの事業も始めましたし、小学校の先生になりたいと思ったことも含めて、そこに理屈ではなく何か刷り込まれたものがあると感じています。

それで振り返ってみると、それはあの「お兄ちゃん」から受けた愛情だと思うのです。小さい頃(あまり記憶にない5歳以下の時代)に受けた愛情、お世話になった経験、教えてもらった知識、みんな無意識の世界に堆積し、大人になったときに、周りの人のためになろうという感情の源

泉になると思われまます。

これから着手する子ども向けの星のソムリエの活動においても、このことは重要だと思います。特に、就学前の3-5歳の子どもたちへの活動を私としては大事にしたいと思っています。

2 それから、、、

中学生の頃は静岡県の浜松市に住んでいましたがそこには静岡大学の工学部があります。今から考えるとかなり先進的な試みだったと思うのですが、大学の研究室に中学生を招いて実験などを体験するプロジェクトがありました。そこでの経験は強い印象として残っています。当時の記憶を振り返ってみると、記憶に残っているのはほとんど学校外の活動です。当時の友達の様子を思い出してみても、学校の勉強とは関係なくそれぞれがそれぞれの興味でかなり専門的な探求をしていました。

今回の星のソムリエユースに関して、ここにもう一つのヒントがあると思います。つまり、小学校高学年から中学生の子供たちでも興味のあることであればかなり高度なことに挑戦しれらうのが良いということです。指導者から見て何か実りがあるとは見えず、こんなこと教えても意味ないかも、とってしまうかもしれません。何かわかってもらえたとか、技術が習得されたとか目に見えるものがなくても気にしないことにしましょう。体験が蓄積することで十分意味があると思います。

3 小さい時から伝える喜びを

もう一つ、私が小さな天文学者の会の活動で確認していることを書きます。会の活動では、小中学生が指導する場面を作ってきました。

一つの例は、小学校四年生向けの望遠鏡作りのワークショップ(コルキット製作)です。このワークショップでコルキットに熟練した私たち会員に混じって、受講生と同世代の小中学生も教える立場のスタッフとして活躍しました。もう一つの例は、街角観望会で通りがかりの市民に行う星空案内です。ここでも小学生も一緒に活動しました。自分のコルキットで説明する、あるいは大人(あるいは親)の持っている望遠鏡の横で説明、客寄せ、、、。ここでも子供たちは大いに活躍しました¹。

ここで、二つのいいことがありました。一つは、子供の言葉による説明が聞く大人にとってもよく響くということ。素晴らしい説明、表現が続出です。もう一つは、説明して喜んでもらえたというハッピー二乗は子供も大人も同じということです。星空案内して喜んでもらえる体験は子どもたちにも大きな喜びを与えるでしょう。

4 まとめ

これまで見てきたように星のソムリエユースの活動は、就学前の子供から中学生まで、子供の成長にとっても大きな貢献ができそうです。それらは目に見えた成果(何かができるようになったとか、理

¹もちろん、周りの大人が危険がないように守ってあげています。

解ができた)はなくてよくて、見えない心の奥底に大きな糧となって残ると思われます。

(補足) これはみなさん承知で余分なことかもしれませんが最後に。考えられる危険は、知識などを競うことになって子供の心を傷つけることです。大人ですら資格制度にすることによってトラブルが生じます。まして子供たちは敏感ですので、指導者が十分注意を払う必要があります。